

観光学部観光学科カリキュラム・マップ

DP (教育目標)

- DP1 観光と社会の双方について基本的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP2 グローバルな視点から、多様な背景、価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、適切に理解して行動することができる。
- DP3 国内外でグローバル化が進む社会において求められる語学力、情報リテラシー、プロジェクトのマネジメントについて理解し活用することができる。
- DP4 グループワークに必要なコミュニケーション能力を身に付け、相手の立場に立って考え、共感性を引き出すことができる。
- DP5 社会人として必要な倫理性を身に付け、多様な価値観を認める寛容さと他者理解の上に立つ共感性、豊かな表現力を持って、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP6 現場での活動を通して身に付けた「やり抜く力」を活かし、主体的に課題を発見し、解決に向けて行動することができる。
- DP7 生涯にわたって学習し自己研鑽を重ねる意欲のもと、社会が求める知識・技能を持続的に高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	SDGs該当項目	
全学 部共 通	観光の現在と未来	2	必修	○	本講義は、観光が求められる現代的意義を理解し、観光の多様性と社会との関わりについて学修することが目的である。そのため、講義は様々な分野の教員が担当するオムニバス形式で展開する。人類学や行動論などの切り口から学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光資源（芸術、健康、自然など）や、観光と社会の関わり（ビジネス、まちづくり、メディア）についての事象を取り上げ、観光学への理解を深めることが目的である。	◎	○							
	English Skills for International Tourism	2	選択		本講義は、グローバルに活躍する観光従事者に必要な英語力の習得を目指す中級者向けの授業である。ツーリズムの主要3部門のうち、主に「航空業」にフォーカスし、分野に即した状況別のセッティングをし、実際の業務シーンに必要なツーリズムの用語や接客表現を学ぶ。実際の業務シーンを再現したアクティビティを通じて、ツーリズムに必要なグローバルなコミュニケーション力を養成する。観光英語検定2級程度の力を習得できる。		○	◎	○					
	Reading and Writing for International Tourism	2	選択		主として英語のReadingとWritingのスキル向上を目標とする上級レベルのクラスである。TOEIC®等の資格試験におけるReadingセクション及びWritingセクションを重点的に学習する。Reading及びWritingスキルは、グローバル社会で仕事する上でなくてはならない技能でもあることから、講義ではReadingとWritingに重点を置き、語彙力・読解力のアップを目指す。		○	◎	○					
	Discussion and Presentation in Tourism	2	選択		ディスカッションとプレゼンテーションを通して、高度な英語力を身に付ける上級者向けの授業である。相応の英語力を前提とするためTOEIC400以上あることが望ましい。授業では、相手の話を聞き、それに対して自分の意見を英語を用いて主張するような練習を重ね、英語での簡単な議論や交渉ができるようにする。また、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを実施しながら、英語のプレゼン能力を実践的に養う。		○	◎	○					
	English for Tourism A	2	選択	○	本講義は、グローバルに活躍する観光従事者に必要な英語力の習得を目指す初級者向けの授業である。ツーリズムの主要3部門のうち、主に「ホテル業」にフォーカスし、分野に即した状況別のセッティングをし、実際の業務シーンに必要なツーリズムの用語や接客表現を学ぶ。実際の業務シーンを再現したアクティビティを通じて、ツーリズムに必要なグローバルなコミュニケーション力を養成する。観光英語検定3級程度の力を習得できる。		○	◎	○					
	English for Tourism B	2	選択	○	本講義は、グローバルに活躍する観光従事者に必要な英語力の習得を目指す中級者向けの授業である。ツーリズムの主要3部門のうち、主に「旅行業」にフォーカスし、分野に即した状況別のセッティングをし、実際の業務シーンに必要なツーリズムの用語や接客表現を学ぶ。実際の業務シーンを再現したアクティビティを通じて、ツーリズムに必要なグローバルなコミュニケーション力を養成する。観光英語検定2級程度の力を習得できる。		○	◎	○					
	中国語Ⅲ	2	選択		講義では、基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加えていく。また学生生活と関わりのある場面設定をし、日常会話を繰り返し練習することで、コミュニケーション力向上を目指す。具体的には、発音（ピンイン）や声調の復習をしながら、新しい単語を覚え、ポイント表現を繰り返し学習する。また、日本語訳、朗読、置き換え練習などのグループ学習で会話力向上を目指す。中国語検定4級程度の力を身につけることができる。		○	◎	○					
	中国語Ⅳ	2	選択		中国語初級段階を終えた上級レベルのクラスである。重要な文法事項をマスターしながら、日本の文化や習慣を中国語で紹介するなどの実践形式を用い、「聞く・話す・読む・書く」の四つの能力の向上をさせる。さらに、観光の現場における「おもてなし」の場面でよく使う短いフレーズを中心に、さまざまな場面で役立つ表現を学び、応用展開できる表現を身につけることを目指す。中国語検定3級程度の力を身につけることができる。		○	◎	○					
	韓国語Ⅲ	2	選択		韓国語文型を定着するための繰り返し練習をするともに、頻度の高い単語を習得し、発音の変化と用言の活用を習得する。また、様々な場面において韓国語で対応できるように文法の理解を深め、会話能力や作文能力を向上させる。具体的には、尊敬の表現や義務・命令の表現などを身につける。学んだ内容を基に話すだけでなく、作文するまでの韓国語表現を身につけることを目指す。ハングル能力検定試験4級程度の力の習得ができる。		○	◎	○					
	韓国語Ⅳ	2	選択		韓国語既習者を対象とする上級レベルのクラスである。韓国語の詩・小説・童話・シナリオなど様々なジャンルの文章を読むことで読解力の向上を目指す。婉曲な表現や注意・指示表現、自然な言い回し、アドバイス表現などの実用的文型と単語を取り入れた会話中心の授業を実施し、最終的には一般的なテーマについて、自分の考えを自然な韓国語で表現できるようになることが目標である。		○	◎	○					
	ハンガリー語Ⅲ	2	選択		1年以上ハンガリー語を学習した学生のための中級レベルのクラスである。文法や語彙に加え、日常会話と翻訳の練習も実践する。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習などを試みる。本講義は、ハンガリー研修やハンガリーへの短期・長期留学プログラムへの参加を希望する学生やハンガリー留学から帰国した学生のためのコースにもなっている。		○	◎	○					
	ハンガリー語Ⅳ	2	選択		1年以上ハンガリー語を学習した学生のための上級レベルのクラスである。教科書に加え、インターネット、テレビ番組などを使用しながら、ハンガリー文化、ポップカルチャー（映画、アニメ、漫画）等を通じて、ハンガリー文化の理解を深める。本講義は、ハンガリー研修やハンガリーへの短期・長期留学プログラムへの参加を希望する学生やハンガリー留学から帰国した学生のためのコースにもなっている。		○	◎	○					
専門日本語（ホテル・観光）	2	選択		将来、接客業につきたいと考える留学生に向けた専門日本語の科目である。本講義では、ホテル・観光業における接客コミュニケーションやマナー、非言語行動を学ぶ。また、学習者が能動的に観光に関する情報を自ら調べて整理し、自分の言葉で完結に述べたり議論したりしていく中で専門語彙・日本語表現・文法を身につけていく。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要。		○	◎	○						

キャリア形成科目群

キャリア形成A	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。そのため、共通基盤科目「アカデミック・スキルズ（1年次1Q開講科目）」を履修し、キャリア形成A～Oまで継続的に履修することで最大限の学修効果が期待できる。「キャリア形成A」では、自己理解・自己認識・社会（職業・社会情勢・組織）への理解を促すとともに、大学で学ぶための基礎的技法の修得を目指す。（1年2Q）	○								◎
キャリア形成B	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成B」では、職業・労働環境・社会情勢・会社組織などの基礎知識を学び、社会に関する理解を深める。（1年3Q）	○								◎
キャリア形成C	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成C」では、社会が必要とされる言語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ディスカッション力の向上を目指す。（1年4Q）	○								◎
キャリア形成D	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成D」では、自己理解/自己認識を深めるとともに、職業についてのより深い知識を身につける。また、一般常識や時事問題を通して社会情勢を理解し、社会人基礎力の向上を促す。（2年1Q）	○								◎
キャリア形成E	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成E」では、主としてビジネス社会で必要とされる知識と技法（数的処理、言語力等）の向上を目指す。（2年2Q）	○								◎
キャリア形成F	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成F」では、会社選びにはどのような点に注意しなければならないかを理解するとともに、就職支援企業から最近の就職情報を伺い、今後の就職活動に役立てる。（2年3Q）	○								◎
キャリア形成G	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成G」では、論理的・批判的思考力向上への訓練を通して「自分で考える力」を鍛える。また、労働環境や会社組織などを理解し、自らの職業観を醸成していくための一助とする。（2年4Q）	○								◎
キャリア形成H	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成H」では、より深く自己分析を進めるとともに、グループワークとプレゼンテーションを通して社会人基礎力を高める。さらに、夏期の企業説明会参加への準備を進める。（3年1Q）	○								◎
キャリア形成I	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成I」では、「キャリア形成E」に続き、ビジネス社会で必要とされる知識と技法（数的処理、言語力等）の向上を目指す。（3年2Q）	○								◎
キャリア形成J	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成J」では、自己分析をさらに深く進め、将来の希望職種を絞れるようにする。グループワークなどにより、自らが求める会社と企業が求める人材についての理解を深める。（3年3Q）	○								◎
キャリア形成K	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成K」では、セルフプロデュースと企業マッチングについての理解を深め、自分にとっての「良い会社」を把握することを目指す。（3年4Q）	○								◎
キャリア形成L	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成L」では、ミクロとマクロの視点で職業、労働環境、社会情勢、会社組織などについての理解を深めるとともに、相手に伝わるESや履歴書を作成できるようになることを目指す。（4年1Q）	○								◎
キャリア形成M	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成M」では、自身のキャリアデザインと企業をマッチングさせていくための言語力・表現力・PRスキル・プレゼンテーション力、ディスカッション力の向上を目指す。（4年2Q）	○								◎
キャリア形成N	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成N」では、卒業後の進路（就職や進学など）に対応できるよう、実践を通して幅広い知識、技法等を身につける。特に表現力、異文化適応力、ビジネスマナーを含めた社会人基礎力の修得に重点を置く。（4年3Q）	○								◎
キャリア形成O	1	選択	キャリア形成は、1年生～4年生まで横断的に各学年に合った進路ガイダンスを行う科目である。「キャリア形成O」では、社会に出て役立つビジネスマナーを身につけるとともに、卒業後のキャリアデザインについて考察する。（4年4Q）	○								◎
観光実務	2	選択	本講義は、観光ビジネスに関する基礎的な知識を修得し、観光ビジネス業界における最新事情に対する理解を深めることが目標である。観光ビジネス業界の旅行業、宿泊業、交通運輸業などに関して業種・職種・社風に対する理解を深め、さらには自ら観光ビジネス業界の最新事情を取得する方法を身につける。また、観光ビジネス業界が必要とする人材の基礎的実務力を育成するとともに、将来の進路に関する方向性の具体化を目指す。	◎	○							○
国内研修	2	選択	国内研修は、観光による地域活性化に取り組む地域を視察し、観光の魅力や地域が抱える課題についての理解を深めることが目標である。国内観光地における研修・視察を通じて、観光の取り組みや観光ビジネスの一端を体験的に学修する。さらに地方創生やインバウンド観光の視点から現地の課題や工夫に触れ、将来必要とされるスキル（課題設定・解決力、論理的思考、コミュニケーション力など）を修得するための機会とする。	◎	○							

海外研修A	2	選択		「海外研修A」は、海外における主要な観光地での視察や体験を通して、国際的な観光の現状に対する理解を深めることが目標である。原則として、本学海外協定校を主な拠点に、アセアン諸国において有力な観光立国としての地位を確立しつつあるマレーシアにて実施する。本研修を通して、観光専門教育への学習意欲を高めるとともに、観光における語学の重要性を認識することにつながる体験となることを目指す。	○	◎													
海外研修B	2	選択		「海外研修B」は、アジアにおける観光業やホスピタリティの在り方を実地で学ぶことが目標である。原則として、本学海外協定校を主な拠点に、講義聴講、実習体験、学生交流、主要観光業・観光地視察等を行い、グローバルな視野を広げるとともにホスピタリティ産業で必要とされる要素について理解を深めることが目標である。	○	◎													
海外研修C	2	選択		「海外研修C」では、欧米研修を通して、国際観光の最先端に触れるとともに、実践的な英語力と異文化コミュニケーション力を高めることが目標である。原則として、本学海外協定校を主な拠点に、現地大学での講義または学生との交流等を通して異文化理解力を高める。	○	◎													
インターンシップ(国内)	2	選択	○	「インターンシップ(国内)」では、「仕事の楽しさ・楽しさ」と「企業で活躍すること」を実地で学ぶことを目標とする。就職活動を見据え、現場を通して様々な業務に触れ、社会で必要とされる力があるようなものを体験する。また実際に職業体験をすることで、就職後のアンマッチを避けられるようにすることも実施意義の一つである。参加者は与えられた業務に対して真摯に向き合うことの重要性を実地に理解する。	○		○						◎						
インターンシップ(海外)	2	選択		「インターンシップ(海外)」では、日本国内では経験できない職務経験を、海外における観光の現場で経験することで観光人財としてのスキルアップを目指すことが目標である。時間数、報酬等については、ビザの条件など渡航先の国と事業所の規定に従うものとする。ただし、留学生在が母国に帰省して参加するインターンシップは、原則対象外である。	○		○						◎						
インターンシップ(長期)	6	選択		「インターンシップ(長期)」は、大学が定める事業所のみで実施される長期プログラムで、観光人財としてのスキルアップを目指すことが目標である。研修期間は、原則2～3カ月程度とし、「インターンシップ(国内)」、「インターンシップ(海外)」とは別途、新たに単位を認定する。履修者は、担当教員の指導のもと、事前・事中・事後指導への参加、レポート提出等が義務づけられる。	○		○						◎						
観光ビジネス特別講座	2	選択		本講座は、観光ビジネスの現場を見学し、観光ビジネスが提供する経済的価値と社会的価値を実地で学ぶことが目標である。宿泊業、交通運輸業、外食産業、MICE施設などの分野に関して、第一線で活躍される方々から講話を伺う機会を設けるなど、理解を深める。また、人口減少、観光公害、感染症など様々な社会課題の影響や地方創生、観光振興の取り組み、社会インフラとして果たす役割などを現場の視点で学ぶことに重点を置く。	◎	○													
デジタルアプリA	1	選択		本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や実践力を身につけるために、ICTの基礎的なスキルを修得することが目標である。コンピュータの基本操作、データの保存と管理といった情報処理の基礎、Microsoft Word、Excelなどを使ってレポート等の文書・資料を作成する際の実践的なスキルの向上に取り組む。	○		◎												
デジタルアプリB	1	選択		本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や実践力を身につけるために、ICTの基礎的なスキルを修得することが目標である。具体的には、適切に情報を扱うための情報倫理を学ぶとともに、Microsoft PowerPointなどを使ってプレゼンテーション資料などを作成する際の実践的なスキルを修得するとともに、プレゼンテーションスキルの向上に取り組む。	○		◎												
デジタルメディアA	1	選択		本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や情報発信力、実践力を身につけるために、ICTの応用スキルを修得することが目標である。具体的にはAdobe Illustratorの利用方法を学び、イラスト描画方法やトレース方法などを修得する。このアプリを用いて、観光などの様々な現場で求められる地図やチラシ、ポスターなどの紙媒体の資料を作成する方法を身につける。	○		◎												
デジタルメディアB	1	選択		本講義は、グローバル化社会にふさわしいコミュニケーション力や情報発信力を身につけるために、ICTの応用スキルとして動画編集の技術を修得することが目標である。具体的にはAdobe Premier Proを用いて、観光の様々な現場で求められる動画を作成する方法を身につける。	○		◎												
観光と社会	2	選択	○	本講義では、観光現象を人の移動、旅、交流といった大きな視点から捉え、それを取り巻く社会や文化、歴史とのかかわりについて、どのような課題があるのかについて考える。具体的には、現代のグローバル社会を考える上で重要なダイバーシティ、ジェンダー、ポスト植民地主義といった概念を理解し、それらの概念が観光にどのような影響を与え、どのような課題があるのかを、日米欧の観光の具体例を挙げながら検討する。	○	○						◎							10
観光人類学	2	選択		本講義は、文化人類学の視点から、観光によって生じる伝統的文化と新しい文化に現れる影響などについて理解を深めることが目標である。人間の移動は新たな文化との接触を生み出す。観光による文化変容やホストとゲストの関係、観光によって作られた文化が伝統的文化の再生や維持につながる点などを概観し、具体的な事例を用いて観光における他者と伝統的文化との関係について学修する。	○	○						◎							10
観光行動論	2	選択		本講義は、観光者の行動について、心理学や日本人の行動の歴史の実態などの基礎的分析をもとに、観光やサービスの場面におけるノンバーバル・コミュニケーションやサービスの基礎理論、さらには観光回遊行動の特性について学ぶことが目標である。また、ビックデータ、RESAS(地域経済分析システム)などの最新技術を取り入れることにより、具体的な分析方法を身につけることを目指す。	○	○						◎							8
観光地理概論	2	選択	○	本講義は、地理学の領域から観光を捉えるための基礎知識を学び、観光地形成への理解を深めることが目標である。具体的には観光関連産業の発達や観光地化に伴う生活・文化への影響などを取り上げるとともに、都市や農村の人口交流、農山漁村の集落地域の特徴、都市景観や交通、そして温泉保養地などの観光地の形成について、具体的な事例を取り上げながら理解を深めていく。	○	○						◎							11

専門基礎科目群

観光政策	2	選択	○	本講義は、観光法制を含めた観光政策全般についての基本的知識を修得することが目標である。観光はビジネスであると同時に、国と国との交流という側面も持っている。従って、市場に任せておくだけでなく、政府が積極的に介入し、人の交流をスムーズにいくために予算の裏付けのある諸施策をタイムリーに実施していくことが求められる。講義では、観光活動がこうした政府の政策に大きく影響を受けることに対する理解を深めていく。	○	○				◎				11
旅行ビジネス基礎	2	選択	○	本講義は、観光ビジネスに関する基礎科目であり、主に旅行ビジネス関連業務の基礎知識を身につけることが目標である。国内・総合旅行業務取扱管理者資格の試験範囲を網羅した広範な旅行業務について、資格試験対策といった技術的な事項にとらわれず修得することを目指す。講義では、ツアープランニング、交通機関の手配、宿泊地の手配などの具体的な事例を通じて、旅行業務の面白さを実感してもらうことを主眼とする。	○	○				◎				8
観光まちづくり概論	2	選択	○	本講義は、観光まちづくりに関する基礎的な知識や考え方に対する理解を深めることが目標である。観光まちづくりの導入授業であり、観光まちづくりの様々な要素について、基礎的な知識や考え方を学修する。具体的には、観光まちづくりとは何かから始まり、観光やまちづくり概念の変遷、観光まちづくり政策や着地型観光の取り組み、観光地経営など、観光まちづくりの基本的な考え方に対する理解を深める。	○	○				◎				11
観光マーケティング	2	選択	○	本講義は、観光ビジネスに関する基礎科目であり、主にマーケティングの視点から交通運輸業、宿泊業、ツーリズムの基礎知識を身につけることが目標である。講義では、観光ビジネスの企業に加え行政による取り組みも取り上げる他、ワーケーション、MaaSなど最近の動向にも触れる。ふんだんなケーススタディを通じてマーケティング戦略の基礎を学ぶことで、将来実務で活用できる理論と実践的な知識を身につけることを目指す。	○	○				◎				8
観光と芸術	2	選択		現代社会において、観光と文化の結びつきは深く、文化への理解なくしては観光を語ることは難しくなっている。本講義では、都市のブランディングにも寄与するアートや伝統文化・芸術と観光の関係について理解を深めることを目標とする。講義では、芸術と観光の関係性を明らかにし、芸術による観光活用手法を学修するとともに、訪日外国人観光客が体験型観光として注目する茶道、浮世絵、陶磁器等について体験的に学ぶ。	○	○				◎				4
観光と自然資源	2	選択		本講義では、自然地理学的視点から、国内外の自然資源に関する知識への理解を深めることが目標である。特に地形学や気候学とともに、国立公園などの地域資源を取り上げ、自然資源の持続的な利用や管理に関する手法を学修する。また、自然を含む環境全般と人間の関わりに関して、身近な生活環境の中から自然、緑、街などのトピックを用いて考察する。	○	○				◎				13
観光と文化財	2	選択		本講義では、文化財や建築物に焦点を当て、世界各地にある文化的遺産と観光の関わりについて理解を深めることが目標である。観光と様々な文化財や建築物には深い関係がある。文化財・建築物は「モノ」としての魅力があるが、それにとどまらず、歴史、文化、宗教、民族など様々な文化的要素との深い関わり合いを持って成り立っている人類の遺産でもある。文化の証としての文化財や建築についての理解を深めていく。	○	○				◎				9
観光と食農・漁業	2	選択		本講義では、観光と食文化の関わりについて理解を深めることが目標である。観光と食文化は関わりを持つことが多い。現在でも農業と観光の融合は、観光業界の重要な柱となっており、漁業でも漁業体験を地域観光に活かす動きが広がっている。講義では、こうした食文化に加え、観光にも関わりのあるバイオテクノロジーやアロマセラピーの視点も取り入れることで、地域特性を活かした観光について理解することを目指す。	○	○				◎				14
観光メディアリテラシーA	2	選択	○	本講義は、観光に果たすメディアの役割について、メディアの基本的な特徴を学修しながら、メディアを正しく受容するためのメディア・リテラシーを身につけることが目標である。現代は、雑誌やガイドブック、パンフレットなどの紙媒体、テレビ番組やYoutubeなどの映像ソフト、インターネットにあふれる旅情報など多岐にわたる観光メディアがあふれている。講義では、観光に果たすメディアの役割について理解を深めていく。	○	○				◎				9
観光メディアリテラシーB	2	選択	○	本講義は、メディア全般や観光メディアの特徴や課題について議論を深めることが目標である。観光だけに限らず、広く社会現象がどうメディアで取り上げられているか、またそれを受け手はどのように受容しているかといったメディア・リテラシーについて、多面的な考察を試みる。そして、自分がメディアの発信側になった際にどんなことに気をつければよいのかという点まで思考を深める。	○	○				◎				9
ニューツーリズム	2	選択	○	本講義は、様々なニューツーリズムを取り上げ、これまでの観光形態とニューツーリズムが掲げるコンセプトの違いを理解することが目標である。講義では、観光庁が主導するニューツーリズムのいくつかを学び、事例を通じて商品化されている実態を学修する。観光による地域活性化を行うために地域特徴を活かしたテーマ性の高い観光をどのように開発するかなど、グループワークでの発表などを通じて理解を深めていく。	○	○				◎				11
観光ビジネス経営管理	2	選択	○	本講義は、観光ビジネスに共通する経営管理について、主に採算管理、組織運営、リスクマネジメントの視点を身につけることが目標である。観光ビジネスの特徴は生産と消費が同時になされる即時性であり、採算性向上には稼働率・搭乗率などの数的経営管理が、サービス品質向上には現場の人材のモチベーションを高める組織運営が求められる。また、移動を伴う観光ビジネス経営には特に重要なリスクマネジメントへの理解も深める。	○	○				◎				9
旅行ビジネス	2	選択	○	本講義は、日本及び世界の旅行ビジネスを理解することが目標である。旅行ビジネスとは、観光、帰省、仕事などの様々な理由で移動する際に必要なサービスを提供する企業活動の総称である。新型コロナ前は全世界で年間14億人もの人々が海外を訪れており、旅行ビジネスは国際的な競争の中にある。講義では、主に旅行会社の現状を概観し、マーケティングや経営戦略などを分析するとともに、今後の旅行ビジネスへの理解を深める。	○	○				◎				9
ホテル・旅館ビジネス	2	選択	○	本講義は、観光におけるホスピタリティ・ビジネスの中核である宿泊業について学ぶことが目標である。講義では、ホテル業を対象に、歴史と現状を分析し、ホテル業の社会的存在意義・経営の価値観・組織・人材・資本・企業価値の向上など事業経営（What）と、日々の運営に関するシステム・仕事の仕方（How）について考察する。具体的には、宿泊業の現状や法制度、施設の基本構成や人材開発、ホテル事情などを取り上げる。	○	○				◎				9

エアラインビジネス	2	選択	○	本講義は、エアラインビジネスを多面的に学ぶことを通じ、エアライン業務や人流・物流についての理解を深めることが目標である。講義では、航空産業の成り立ちや経営環境、エアラインビジネスの具体的な業務実態、安全・リスク管理、事業戦略、マーケティングなどに関する知識を様々な事例を交えて身につけるとともに、観光ビジネスで必要とされる幅広い知識や経営手法、さらには基礎的な思考力を修得することを目指す。	○	○				◎					9
観光交通	2	選択		本講義は、鉄道や高速道路を利用した事業、人の流動、地域活性化についての理解を深めることが目標である。鉄道に関しては産業の成り立ちや経営環境、具体的な業務実態、関連事業、経営戦略など、高速道路に関してはハイウェイが地域の産業や観光に果たす役割、サービスエリアやハイウェイオアシスといった高速道路関連事業の戦略などに関する知識を身につけるとともに、鉄道・高速道路ビジネスによる地域活性化についても考察する。	○	○				○					9
イベント・ブライダルビジネス	2	選択		本講義は、テーマパーク、ブライダル、イベントなどを切り口として観光への理解を深めることが目標である。ディズニーランド、ユニバーサルスタジオ、ハウステンボスといったテーマパークは観光の牽引車であり、ブライダルやイベントも観光を促すビジネスである。さらに、MICEに観光の色彩を加えることでIR (Integrated Resort) を展開することの是非などの議論を通じ、観光の重要性に対する理解を深める。	○	○				◎					9
アジア観光研究	2	選択		本講義は、アジア全体の理解を深め、アジアの観光に関する基本的な知識を身につけることが目標である。講義では、アジア諸地域の観光の在り方について学び、域内観光資源の活用方法を考察することとともに、訪日観光の視点からインバウンド上位国及び地域からの訪日観光客の特性と動向を分析することを通して、インバウンド観光の重要性と必要性への認識を深めていく。	○	○				◎					10
欧米観光研究	2	選択		本講義は、欧州・米国の歴史的・文化的背景を概観しつつ、その観光特徴について理解を深めることが目標である。講義では、ヨーロッパの様々な国における観光の経済的、社会的、政治的、環境的状況を理解することで、観光が将来進むべき方向性について理解することが目標である。併せて、アメリカの観光事情についても、歴史的・文化的背景を概観し、その理解を深めていく。	○	○				◎					10
観光まちづくり事例研究	2	選択	○	本講義は、観光まちづくりの実践について概観し、その具体的手法に対する理解を深めることが目標である。国際競争力の高い魅力あるまちづくりは、行政組織における観光政策と地域住民が主体的に地域の魅力を活かす活動の双方が連関することで効果を発揮する。そのような観光まちづくりの具体的事例を取り上げ、その手法に対する理解を深めながら学修する。	○	○				◎					11
地域観光	2	選択		本講義は、テーマごとに地域と観光のつながりを深めるとともに、日本と世界の話題の「地域」に焦点を当て、地域の特性と最新の観光事情を理解することが目標である。観光は、地域と深く密接に結びついており、その地域に行かなければその特徴を味わえないゆえに、地域は貴重な観光資源となる。講義では、テーマごとに地域と観光のつながりを深めるとともに、現在進行している地域の様々な問題についても理解を深める。	○	○				◎					8
観光地経営	2	選択		本講義は、観光地経営の概念や観光地の経営戦略に対する理解を深めることが目標である。主に、観光地経営の事例分析などを通じ、地域の問題解決へ向けた提案能力を身につけることを目指す。具体的には、日本の国や地方の行政システムや基本計画、観光行政、地方財政の現状や観光による経済波及効果など、地域経営の視点を学修する。また、DMOなどの事例分析を通じ、地域への観光プロモーションの方法についての理解を深める。	○	○				◎					11
開発経済学	2	選択		本講義は、主に発展途上国における経済の現状や今後の開発のあり方について理解を深めることが目標である。高度経済成長を果たした日本や東アジア諸国の開発理論をモデルとし、発展途上国の経済開発やそれに起因する貧困問題、環境問題などについて学修する。また、独立行政法人国際協力機構 (JICA) や日本の政府開発援助 (ODA) の活動について概観し、開発途上国への国際協力や経済学の幅広い知識についての理解も深める。	○	○				◎					1
地域デザイン	2	選択	○	本講義は、観光において、デザインが果たす役割について理解を深めることが目標である。デザインとは建築やインテリアだけではなく、広く文化に関わっている。観光に関わる様々なモノやコト、ヒトによって生まれる体験的価値の創出が観光地への訪問意向を引き出し、次第に地域としてのブランドが構築される。本講義では、観光に関わるデザインから始まり、地域がプランディングされていく過程を学修する。	○	○				◎					11
観光メディア制作基礎A	2	選択	○	本講義では、観光メディアの観点から地域社会の情報を発信するための基礎スキルを身につけることが目標である。具体的には、観光メディアの制作に必要なAdobe Illustratorなどのアプリを用いて、情報の編集や画像の利用における基礎的なスキルを修得し、実践的かつ理論的な側面から、潜在的な観光客に加え、地域に住む人々に向けた地域情報の共有をテーマとしたフリーペーパーの制作を実践する。					○	○	◎	○			9
観光メディア制作基礎B	2	選択	○	本講義は、基本的な動画撮影と動画編集の技術を身につけることが目標である。現在では、地域社会においても多様なメディアを活用できる技術を修得した人材が求められている。本講義では、様々なメディアの撮影機材 (ドローン、GoPro,360度カメラなど) を利用した映像撮影を実践する。また、Adobe Premiere Proを利用して、視聴者や視聴する場面を想定した動画編集を行う。					○	○	◎	○			9
観光プロジェクトA	2	選択	○	本講義は、履修生が主体的に参加するプロジェクト型授業である。具体的な講義内容は様々であるが、地域社会や企業が有する様々な課題を発見し、その解決に至るプロセスを通して、プロジェクト遂行の手法を修得することが目標である。講義は演習形式であり、プロジェクトを実践する過程で、企画力・遂行能力・マネジメント力・合意形成力などを高め、目的達成の方法を身につける。						◎	○	○	○		11
観光プロジェクトB	2	選択	○	本講義は、履修生が主体的に参加するプロジェクト型授業である。具体的な講義内容は様々であるが、地域社会や企業が有する様々な課題を発見し、その解決に至るプロセスを通して、プロジェクト遂行の手法を修得することが目標である。講義は演習形式であり、プロジェクトを実践する過程で、企画力・遂行能力・マネジメント力・合意形成力などを高め、目的達成の方法を身につける。						◎	○	○	○		11
観光メディア制作応用A	2	選択		本講義は、観光メディア制作基礎Aの応用編として、新しい観光の価値を自ら作り出すスキルの修得が目標である。特に、観光まちづくりに寄与するための地域の情報や、観光ビジネスに寄与できる新しいビジネスを主眼とした情報を掲載したフリーペーパーを制作する。地域の中で行うにあたっての会場借用や会場設営などにも取り組み、自分たちの中で工夫して実施できるようにマネジメントの方法などを身につける。						○	○	◎	○		9

専 門 科 目 群 II	観光メディア制作応用B	2	選択	本講義は、観光メディア制作基礎Bの応用編として、既に身につけている高度な動画撮影技術と動画編集技術を活用し、観光地をセルフブランディングする方法を身につけることが目標である。そこで講義では、グループに分かれて地域へ取材を行い、ドキュメンタリー映像などを作成する。映像による地域ブランディングの方法を実践するとともに、チームマネジメントの方法を身につける。					○	○	◎	○	9
	観光ゼミナールA	1	選択	観光ゼミナール（ゼミ）では、学生は自らの希望する研究テーマのゼミを選択することができる（ただし人数制限があるため、必ずしも希望するゼミに所属することはできない）。ゼミでは各テーマに合わせて、学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールA」では、担当教員とともに研究の方向性やプロジェクトの取り組みを検討し、ゼミでの研究活動を進めていく。					○	○	◎	○	
	観光ゼミナールB	1	選択	観光ゼミナール（ゼミ）では、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールB」は、「観光ゼミナールA」で履修選択したゼミを継続して履修する。「観光ゼミナールB」では、「観光ゼミナールA」で検討した研究の方向性やプロジェクトに取り組み、ゼミでの研究活動を進めていく。また、併せて卒業論文を執筆するかを担当教員とともに検討する。					○	○	◎	○	
	観光ゼミナールC	1	選択	観光ゼミナールでは、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールC」では、担当教員とともに研究やプロジェクトに取り組みと同時に、卒業研究や卒業制作について検討し、ゼミでの研究活動を進めていく。卒業論文を執筆する学生は「卒業論文」を履修する。					○	○	◎	○	
	観光ゼミナールD	1	必修	観光ゼミナール（ゼミ）では、各ゼミのテーマに合わせて学生自らが研究やプロジェクトなどを進めていく。「観光ゼミナールD」は必修科目であるので、必ず履修しなくてはならない。「観光ゼミナールD」では、これまでのゼミ研究活動の成果として、卒業研究あるいは卒業制作を課題として執筆・制作し、提出する。なお、卒業論文を執筆する学生は、卒業研究・卒業制作を提出する必要はない。					○	○	◎	○	
	卒業論文	4	選択	「卒業論文」は、ゼミでの研究活動の成果として執筆する。卒業論文を執筆するには、ゼミ担当教員の指導のもとに研究内容を検討し、「卒業論文規定」に基づいて執筆・提出する。そのため、「観光ゼミナールA」から継続的にゼミを履修することで研究活動を深めていくことが重要となる。卒業論文に関する諸規定は別途「卒業論文規定」に示している。					○	○	◎	○	

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」